

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025 年 4 月 28 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏 名	小笹瑛一朗

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
神戸港～函館港
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
海棲哺乳類調査実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2025 年 4 月 20 日 ～ 2025 年 4 月 24 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸, 三谷曜子教授

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。

今回の実施した海棲哺乳類調査実習では、北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸に乗船し、目視調査を行った。この実習では、海棲哺乳類の研究に必要なフィールドワーク、特に船における調査に必要な活動技術および安全確保法、調査手法を身につけることを目的とした。



おしよろ丸(神戸港停泊中)



神戸港～函館港までの航路

調査のスケジュールは以下のとおりであった。

- ・ 4/20 14:00 乗船, 船内見学および諸注意, 16:00 神戸港出港, 16:10 頃～17:00 目視調査
- ・ 4/21 6:30～17:00 目視調査
- ・ 4/22 10:00～17:00 目視調査
- ・ 4/23 6:00～17:00 目視調査
- ・ 4/24 6:00～7:00 目視調査, 9:00 函館港着港

目視調査は、実習生二人と、三谷先生または TA の鈴木さんのどちらかの、合わせて三人でワッチを組んで実施した。実習生は一時間ごとに一人ずつ交代し、実習生一人が、一回の目視で二時間分を担当するように毎日ワッチを組んだ。海棲哺乳類を発見した際は、発見報告、対象までの距離と角度を他の調査員に伝え、可能であれば写真や動画を記録する。また、30 分ごとに天候、視界、視程、見やすさ、反射、海況を記録した。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

発見記録

- ・ 4/20 発見無し
- ・ 4/21 コドモを含む、ハンドウイルカを何頭か確認(私は確認できず)
- ・ 4/22 昼ごろに遠くのほうでヒゲクジラ類と思われるブローを確認、船の近くでゴンドウ類の群れを確認
- ・ 4/23 早朝にザトウクジラらしきヒゲクジラ類を確認(私は確認できず)
- ・ 4/24 発見無し

実習所感

おしよろ丸は、学部生時に実習で何度か乗船しており、今回は久しぶりの乗船となった。過去の实習でも目視調査は経験していたが、今回の実習は改めて目視調査の作法を確認する、良い機会となった。また、今回航行した太平洋沿岸での目視調査は未経験であり、どのような海棲哺乳類が見られるのか楽しみであったが、期待通り、とはいかず、ほとんど見られないという結果になってしまった。来年以降、乗船する機会があれば、より多くの発見があることを願う。ところで、今回の実習で一番苦労したのは船酔いである。二年前の乗船時は、航路は違えど、ほとんど船酔いにならなかったのだが、疲れが溜まっていたのか、三日目までほとんど食事が取れなかった。ゼリーなどを飲んでも吐いてしまい、酔い止めを服用し、比較的穏やかな海況でさえも吐いてしまう始末であった。四日目以降、だんだんと回復したのだが、特に三日目の海況で酔ってしまったことが非常に歯がゆい。今後の目視調査では、乗船前の体調管理にも気を配りたい。



おしよろ丸から函館山を望む



船先に乗船したミツユビカモメ

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

本実習の参加にあたり、PWS から支援をいただきました。ご支援に感謝いたします。さらに、函館まで無事に航行してくださったおしよろ丸の船員の皆様、および指導していただいた三谷先生、TA の鈴木さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。